

1 学年 家庭総合科作業学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	販売用の製品作り	生徒	家庭総合科1年生徒7名
		場所	縫工室
日時	令和元年7月11日(木)5・6校時	指導者	T1:初山 T2:成田 T3:青山

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・販売用の製品を作ることができる。
- ・適切なやりとりをしながら、仲間と協力して作業を進めることができる。

(本時の目標)

- ・数値目標を意識して、製品作りを進めることができる。
- ・仲間に適切な声掛けをして、時間内に清掃を終わらせることができる。

2 生徒について

- ・適切なやりとりについて教師の助言を聞きながら取り組む様子が見られる。
- ・見通しをもつことが苦手であるが、指示のとおり作業することができる。
- ・清掃開始時間を意識することができるが、終了時間に間に合わないことがある。

3 単元における「主体的・対話的で深い学び」の各目標とねらい

(主体的な学び)

目 標：数値目標を達成するためにどのように進めたらよいか考え、作業することができる。

ねらい：どのように進めるかを考えながら作業を行い、時間を意識して製品作りを進めることにつなげる。

(対話的な学び)

目 標：ペアや全体に対して必要な声掛けをして、協力して作業することができる。

ねらい：仲間との協力のためにどのようなやりとりをしたら効果的か、実践をとおして知る。

(深い学び)

目 標：これまでの製作のペースを基に目標を立て、作業の見通しをもつことができる。

ねらい：目標を立てて作業に取り組むことで、数値（個数や時間）の見通しがもてることに気付く。

4 指導計画

第1回 7月 3日：販売用の製品作り（個人で目標を立てる）【主】

第2回 7月 4日：販売用の製品作り（ペアやグループで目標を立てる）【主・対】

第3回 7月 9日：販売用の製品作り（ペアやグループで目標を立てる）【主・対・深】

第4回 7月 11日：販売用の製品作り（ペアやグループで目標を立てる）（本時）【主・対・深】

※ 授業を振り返って

数値目標をペアやグループで立てさせたことで、時間や個数を意識して製品作りを進めることができた。教師や仲間とのやりとりの場面を設定したことで適切なやりとりをする姿が見られたが、簡潔に伝えることが難しい様子もあった。残り時間が少なくなったとき、進捗状況を考えて対応することについては更に指導が必要であると感じた。

5 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 5分	- 挨拶 - 本時の学習内容	- 日直が挨拶をする。 - 本時の学習の流れを確認する。	- 一列に並び、姿勢を正しているか確認する。 - 本時の学習内容を説明する。	生徒の動きを見て、挨拶の姿勢を取る。	
展開 75分	- 製品作り - 清掃	<u>本時の目標をペアやグループで決め、報告をする。</u> <u>ペアやグループでやりとりしながら、製品作りをする。</u> <u>時間になったら片付けて、清掃を行う。</u> - 本時の進捗状況を報告する。	- 本時の数値目標の報告を受け、板書する。 - 巡視しながら助言する。質問されたときには答える。 - 適切な仲間とのやりとりができているか確認し、適宜助言する。 - 進捗状況の報告を受ける。	- 数値目標を確認する。 - 巡視しながら助言する。質問されたときには答える。 - 適切な仲間とのやりとりができているか確認し、適宜助言する。	- 製作に必要な道具類 - 清掃用具
整理 20分	- 日誌の記入 振り返り - 反省・挨拶	- 日誌を記入し、振り返りをする。 - 全体で反省をし、日直が挨拶をする。	- 生徒個人の反省を受けて、振り返りを行う。 - 全体の反省を述べる。	- 生徒個人の反省を受けて、振り返りを行う。 - 全体の反省を述べる。	日誌

※「主体的・対話的で深い学び」の目標に関連する活動については、_____下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	販売用の製品作り	生徒	家庭総合科1年生徒6名
		場所	縫工室
日時	令和元年7月11日(木)5～6校時	指導者	T1:初山 T2:成田 T3:青山
取り入れた目標	主体的な学び	対話的な学び	深い学び

①取り入れた目標について

「主体的な学び」については、数値目標を自分で立て、その達成に向けてどのように進めたら良いかを考えながら作業を行わせた。昨年も同様の取り組みを行ったが、今年度は1年生で、自分の作業量を的確に把握できていない生徒もいるため、「〇枚(個)以上」という最低ラインを示して、目標設定させた。指導計画の1回目では個人で数値目標を立てさせ、1回の授業でどのくらい進められるかを実感させた。目標を設定することで、作った数や残り時間を意識する様子が多く見られるようになった。その後の指導計画の2回目以降は、ペアやグループで取り組ませ、効率良く進めるためにどのように協力したら良いかを考えさせた。自分の仕事だけ行えば良いのではなく、相手の仕事の状況を把握して、ペアやグループで必要な情報を伝え合うことの必要性を感じさせることができた。

「対話的な学び」については、教師に目標や進捗状況を報告する場面やペアで話し合う場面を設定した。授業で何度か繰り返してきたことで、適切な言葉遣いや態度で対応することが増えた。

「深い学び」については、自分の作業のペースと時間を考え、見通しをもって作業することが少しずつできるようになった。また自分の仕事だけではなく、周囲のことを把握しようとする様子も増えた。更に今回の授業では、前時の結果を生かして、工夫できることはないかも考えさせた。

②授業全体について

前回の結果から数値目標の最低ラインを設定したが、ステンシルとミシンがけについては設定数が少々高かった。何回かの作業学習の平均数を見ながら、適切な数値になるように調整が必要である。

また担当する作業内容を前回と同じにしたことで、目標数の設定や道具の準備を手早く行うことができ、「前回の結果を生かして、工夫できることはないか。」という点を話し合わせることができた。しかし具体的な工夫を考えることが難しい生徒もいたため、発問の仕方に改善が必要であった。

製作作業自体は集中して取り組むことができ、清掃についても、時間を意識して道具の片付けに入ることができた。仲間同士で声を掛け合いながら、時間までに終わることができた。

③今後の取り組みについて

指示されたことを自分のペースで行うことは概ねできているが、周囲と協力して進めることについては、促しが必要である。また、残り時間で1つでも多く完成させるにはどのようにしたらよいかを判断することも難しい。今後の授業で、必要な助言をしながら、成功と失敗の両方の経験を積ませていきたい。また、目標数を達成しても、「より効率よく進めるために、改善する。」といった向上心はあまり感じられないのが現状である。作業学習の経験を、「深い学び」につなげ、働くために必要な力を付けるには、更に指導が必要であると感じた。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	販売用の製品作り (作業学習)	生徒	家庭総合科1年生徒6名
		場所	縫工室
日時	令和元年7月 11 日(木)5～6校時	指導者	T1:初山 T2:成田 T3:青山
取り入れた目標	主体的な学び	対話的な学び	深い学び

① 取り入れた目標について

「主体的な学び」「対話的な学び」の点において、本HRの生徒の中には、教師や仲間に対し適切な報告や相談をどのように言ったらよいか迷うときがあり、本時もMTが例示した目標値をほぼそのままに自分たちの目標として決定してしまう様子が見られた。こうした話し合いの際の意見の出し方や聞き取り方、自身の能力を踏まえた作業の目標設定については、今後も引き続き練習と助言を行っていきたい。

「深い学び」においては、これまでの経験を基に準備や片付けを含めた作業全般、掃除においてもスムーズに行うことができていた。特に掃除においては、仲間同士の声掛けや、自分の担当を終えたら別の担当を手伝うといったことも行うことができた。

② 授業全体について

ペアやグループでの簡単なやりとりは行えていたと感じる。また、個人の作業能力自体は良好で、話し合いを終えてからの作業の進捗はスムーズであった。

前回の授業での経験を生かした目標設定がなされたが、作業時間の違いや、作業内容の微妙な変化、人数の減少（1名が直前に体調不良で作業学習の授業を欠席することとなった）などがあり、目標達成にはわずかに届かなかった。

③ 今後の取り組みについて

1年生の段階において、上記のような微々たる変化に対応した目標設定や役割の変化をつけることは難しいと考えられるため、今後は、細かな部分についてもフォローを行っていく。

また、ステンシルの絵の具について、生徒に色の選択をさせたが、絵の具によっては先に着色した色の上に乗らない（2番目に着色した色に不透明感がなかったため）ことがあった。今回は同系色で濃い色の上でも発色する絵の具を後から着色することでフォローできたが、今後、生徒に色の選択をさせる際は、組み合わせについての助言を行ったり、一緒に選んだり、別の布に試させるなどを行っていく。

授業参観者アンケート

「主体的・対話的で深い学び」についての評価
【主体的な学び】 ・ 単元中、4回目の授業ということあり、生徒たちは皆、見通しをもって主体的に活動することができていたと思います。また、目標達成に向け、1つの製品を仕上げる時間も、一人一人が見通しをもっている様子で、皆あわてることなく、丁寧に作業している姿が印象的でした。改めてですが、反復と積み上げの大切さを感じています。 ・ 指導者に確認を求めたり、仲間（ペア）と相談して物事を決めたりしている点は「対話的な学び」でもあり、その授業の目標を達成しようとする意欲の表れでもあると考えると「主体的な学び」でもあったと思いました。 ・ 話し合う内容が、「目標枚数」や「目標個数」など明確で分かりやすいものだったので、生徒達も話し合いがしやすいように感じました。前回の反省を黒板の表から受けて、改善点を考えながら話し合いができていた点も良かったと思いました。 【対話的な学び】 ・ 班内で「何を」「どうする」など、言語で伝え合うことができていた。 ・ 清掃中に声掛けできていたように感じました。 ・ 作業内容の確認を生徒たちが活発にやりとりしていたのが印象的でした。とても良い時間だったと思います。 ・ 作業中はどうしても無言になってしまうと思いますが、途中、必要に応じてペアで声を掛け合っていた所が良かったと思います。 【深い学び】 ・ これまでの製作ペースは分かりませんが、どの班も集中し意欲的に見通しをもって取り組んでいるよう感じました。 ・ 単元の目標にある「適切なやりとりをしながら」にフォーカスして、指導者や仲間とコミュニケーションをとる場面において、それが適切かどうかを考えさせる指導が適宜あると、「適切なやりとり」について「深い学び」をさせることができるのかとも思いました。※
授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）
・ 作業内容への質問に対して、生徒が的確に答えることができており、自分が担当する作業を理解して取り組めているのが素晴らしいと思いました。 ・ 上記※に関して、ステンシル（色つけ）を行っている生徒が指導者に確認を求めた際、座ったまま話していましたが、起立した方が礼儀としては良いかと思いました（その後指導者が確認のため近づいたときは起立していました）。 ・ 結果として、数値目標は達成できていませんでしたが（ミシン G）以外、全体として落ち着いて、いいに作業できていたと思います。STも含め、教師の支援、声かけ等も適切でした。 ・ 授業始めの話し合いがとてもスムーズでしたが、おそらく生徒達が初めからできたのではなく、繰り返しご指導された成果と感じました。ステンシルチームは会話が少なかったもので、どうなるのか

な…と思いながら見学しましたが、「1枚できました」と、必要なことは互いに報告し合っていた所が素晴らしいと思いました。入学して3ヶ月、ここまでペア学習が形になっているのはすごいと思います。時間の見通しなど、まだまだペアで話し合える部分がたくさんあると感じましたので、これからますます生徒達は力をつけていくのだろうと思いました。

- 清掃前に椅子を机の上に上げない理由があれば教えていただきたいです。モップがけのとき、一回一回よけながらだと効率が悪いと感じました。
- オレンジモップで床に油剤を付けているので、雑巾がけはなくてもいいと思います。

2 学年 家庭総合科 作業学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	販売会に向けて製品を作る (販売会用ポスターの作成)	生徒	家庭総合科 2 年生 7 名
		場 所	コンピュータ室
日 時	令和元年 10 月 31 日 (水) 5・6 校時	指 導 者	T1: 小林、T2: 出村

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・体験的な学習や生産学習を通して勤労の体験を豊かにし、その意義を理解させる。
- ・安全に留意しつつ、仲間と協力して作業することができる。

(本時の目標)

- ・学校祭の来客が分かりやすく、見やすいポスターを作る。
- ・仲間と意見を交わし、互いの意見を認め合うことができる。

2 生徒について

- ・顧客の嗜好を考えた製品作りをしているが、他者の気持ちを自分の考えや行動に生かすために助言を必要としている生徒が多い。
- ・他の学習でブレインストーミングを学習しているが、意見が対立したときに相手の気持ちを考慮した発言を苦手としている生徒が多い。
- ・発言を得意とする生徒が率先して発言し、その流れに乗るように周りの生徒が発言することが多い。

3 単元における「主体的・対話的で深い学び」の各目標とねらい

(主体的な学び)

目 標：適切なポスター図案を考え、コンピュータで作ることができる。

ねらい：テーマに沿って自ら考え、コンピュータを使用して表現することができる。

(対話的な学び)

目 標：他者の意見を取り入れながら、話し合いをすることができる。

ねらい：課題を解決するために、他者と対話し、情報をまとめることができる。

(深い学び)

目 標：相手の立場に立って考えることができる。

ねらい：顧客の嗜好や仲間の意見を受け入れ、最善なものを想像することができる。

4 指導計画

第 1 回 10 月 31 日：販売会用ポスターの図案を考える【主・対】(国語)

第 2 回 10 月 31 日：販売会用ポスターを作る【主・深】(本時)

※ 授業を振り返って

総合的な学習の時間の情報や昨年のポスター作りで学んだことを生かしてもらおうと思い、

この単元ではパソコンの技術的な要素を指導しなかったのだが、半分の生徒はワードアートの使い方もわからず、学んだことを生かすことができなかった。また、分からないことをすぐに聞くことが難しい生徒も複数いた。これらは予想していたことだったが、生徒はパソコンの技術的要素に主眼を置くことになってしまい、本時の目的がやや薄れてしまっていた。本時の目標は概ね達成できたが、今後は、生徒が目標に向かって学習できる学習方法を選択する。

6 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動		教材教具
			MT	ST	
導入 10 分	・ ミーティング ・ 前時(国語)の確認	・ 当番が司会をする。 ・ 紙の図案と必要条件(①商品名②価格③学科名)を確認する。	・ 本時の内容を確認する。 ・ ソフトの起動中に確認させる。 ・ 作成例をプロジェクタで表示。	・ 指示に沿って活動できているか机間巡視をする。	・ ワークシート ・ PC ・ プロジェクタ
展開 75 分	・ ポスター作成 ・ 完成したポスターについて意見を求める	・ <u>パソコンで、ポスターを作る。【主】</u> ・ 完成したポスターを掲示する。 ・ <u>仲間の意見を聞く。【対】</u> ・ <u>意見を基に、他の生産品のポスターか、2パターン目を作る。【深】</u>	・ パソコンやソフトの使用で不安があるときは、仲間との協力や教師への質問をするように促す。 ・ 完成した報告を受けて、印刷と掲示を指示する。 ・ ポスターについて、顧客の嗜好を基にした改善案を求める。 ・ 改善案を取り入れたポスター作りを指示する。	・ 質問されたときやパソコンが苦手な生徒にも様子を見て助言をする。 ・ 完成した生徒に報告を促す。 ・ 必要に応じて、助言をする。	
整理 15 分	・ まとめ ・ 反省	・ 販売会や生産品作りでは、顧客の嗜好、仲間の意見の取捨選択が必要だということを改めて考える。 ・ 当番が司会をする。 ・ 次回の授業内容を確認する。	・ 完成したポスターを例に、どのような考えに基づいて作製したか生徒の意見を聞きだし、良い点を全体で共有する。 ・ 本時の良い点改善点を伝える。 ・ 次回は、製品作りの続きをすることを確認する。	・ 本時の良い点改善点を伝える。	

※「主体的・対話的で深い学び」の目標に関連する活動については、_____下線を引く。

実践レポート（MT用）

単元・題材名 (授業名)	販売会に向けて製品を作る (販売会用ポスターの作成)	生 徒	家庭総合科 2 年生徒 7 名
		場 所	コンピュータ室
日 時	令和元年 10 月 31 日(水) 5・6 校時	指 導 者	T1: 小林、T2: 出村
取り入れた目標	主体的な学び 対話的な学び 深い学び		

①取り入れた目標について

学校祭の来客が分かりやすく、見やすいポスターを作ること、仲間と意見を交わし、互いの意見を認め合うことができることを目標として、おおむね達成できた。

完成したポスターへの仲間の意見を聞いていたときには、「学科の字を大きくしたほうが良い。」「レイアウトを変えたほうが良い。」など、様々な意見が上がったが、「私がせっかく考えたんだのに・・・。」「ちょっとむかつかます。」など、作成者の本音も聞こえつつ、来客者が見やすいことを念頭に、仲間の意見を取り入れたり、どのようにしようか悩んだり、深く考えることができたようであった。

その反面、複数の生徒はパソコンの技術的な部分に主眼を置くこととなってしまう、目標がやや薄れてしまっていた。総合的な学習の時間の情報や昨年のポスター作りで学んだことを生かしてもらおうと思い、この単元ではパソコンの技術的な要素を指導しなかったのだが、複数の生徒はワードアートの使い方も思い出せず、学んだことを生かすことが難しかった。これらは予想していたことだったが、予想以上でもあったため、指導内容や目標設定を生徒の実態に合わせるべきであった。

②授業全体について

パソコンが得意な生徒と苦手な生徒で学び方の差が大きく出てしまったように感じた。また、分からないことをすぐに聞くことが難しい生徒も複数おり、パソコンが苦手な生徒に対して課題の難易度が高く、多くの支援が必要な状況であった。STに適切な支援をしていただいたが、学習内容や教材の工夫をすることで自分の力で学ぶことができるように準備しておく必要もあると感じた。

③今後の取り組みについて

今後は、技術的要素を事前に学習として取り入れたり、ワードアートや画像挿入のマニュアルを使ったりするなど、生徒が目標に向かって学習できる方法を選択するとともに、これまでの経験や得た知識を結び付けて考えられる活動を通常の作業学習や学校生活の中で意識させていく。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	販売会に向けて製品を作る (販売会用ポスターの作成)	生 徒	家庭総合科2年 生徒7名
		場 所	コンピューター室
日 時	令和元年 10 月 31 日(水)5～6校時	指 導 者	T1:小林 T2:出村
取り入れた目標	主体的な学び 対話的な学び 深い学び		

① 取り入れた目標について

ポスター作成中は机間巡視を行った。「(PC 打ち込みに際して) 分からないことは先生たちに質問してください。」と MT から指導があったため、苦戦している状況でも極力こちらから声をかけず、生徒からの発信を待った。生徒は自分のイメージ通りにデザインできないことがあったようだが、「まず自分でやってみて上手くいかなかったら質問する」ということができていた。

② 授業全体について

思うようにパソコンが使いこなせず四苦八苦していた場面も見られたが、ポスター作りを楽しんでいるように見えた。他者のポスターを見て意見を言ったり、またその意見を取り入れたりして、デザインを直してそれぞれに良いポスターができていた。改善案を複数指摘される生徒もいたが、悲観することなく笑いも交えながら和やかに意見が出ていたことが良かった。

③ 今後の取り組みについて

授業時間内に作成できない生徒がいた。最初の文字にかなり時間をかけてしまっていたことが原因と思われる。作成がうまく進んでいないことに気付くのが遅く、もう少し早い段階で声を掛ける必要があった。

別紙 2

単元・題材名 (授業名)	販売実習に向けて製品を作る (担当：ポケットティッシュケース)	生 徒	家庭総合科2年生徒6名
		場 所	作業室2
日 時	令和元年 12 月 19 日(木)5～6校時	指 導 者	T1:小林 T2:出村 T3:中島 T4:金子
取り入れた目標	主体的な学び 対話的な学び 深い学び		

実践レポート（S T 用）

①取り入れた目標について

これまでの作業での経験を基に、自分自身の苦手な部分を自覚しながらも意欲的に取り組む姿勢が見られた。報告・相談もできてはいたが、清掃活動の時にスムーズに行えていない人もおり、協力しながら活動できれば良いと感じた。生徒によっては、周りを見るわけでもなく、みんなでという意識もないようだった。

②授業全体について

それぞれ違う課題に取り組み、製作活動を行った。そのため、困ったときや確認などは担当の指導者へ聞くこととなっていた。全体的に、報告はスムーズに行えており、意欲的に活動している様子がうかがえた。

③今後の取り組みについて

2 学期最後の製作活動となったため、3 学期までに作業手順等を把握できるようにするか、3 学期に確認から始めるとスムーズに入っていけると感じた。

3 学期には校外学習活動が入ってくるため、目的・目標の設定が大事になってくる。

実践レポート（ST用）

単元・題材名 (授業名)	紙漉き(作業学習)	生徒	家庭総合科2年生徒8名
		場所	作業室2
日時	令和元年 12 月 19 日(木) 5～6校時	指導者	T1:小林 T2:出村 T3:中島 T4:金子
取り入れた目標	主体的な学び 対話的な学び 深い学び		

① 取り入れた目標について

「主体的な学び」の目標は、本時の目標生産数を達成するためにどのように作業すればよいかを考えさせることであった。しかし、対象生徒は、前時の欠席が影響してこの時間の具体的な目標生産数を設定することができなかった。便せん印刷から始まり、便せんの裁断を終えると作業時間がほぼ終わってしまった。これは、本生徒と以前レターセットを担当した生徒との引継ぎが不十分だったからである。そのため、次時からは自ら進んで打合せを行い円滑な作業に取り組めるように促した。

「対話的な学び」の目標は、他の班員と確認しながら作業を進めることだった。日常の活動が生かされ恵確実に確認を取りながら作業を進めていた。また、質問も指導者や他の生徒にしっかり聞くことができていたので今後も継続するように促した。

「深い学び」の目標は、自分の課題解決(「間違わないで作業する」)に取り組むであった。作業の見通しは、もてないでいたが、今までできていた作業も失敗を繰り返していたので指導者(T1)から再度注意される場面があった。これは、本人の障害特性もあり、なかなか長期記憶が定着しづらいことが影響していると思われるが、しっかりメモをとる習慣が身に付いているので、項目や日付けで分けることで過去の失敗を再確認しやすくなることを助言した。

② 授業全体について

授業は、いつものように規律が守られ落ち着いた雰囲気の中でスムーズに進んでいた。対象生徒は、他の作業は経験のある内容であったが、本作業内容は2時間目だったこともあり次の作業手順に苦慮していた。しかし、以前レターセットを担当した生徒に質問するタイミングがつかめず時間を無駄にする場面もあり事前に打合せをする必要性を説明し、次回は作業時間の最初の部分で作業手順を確認するように助言した。

③ 今後の取り組みについて

今回の研究授業は、特設だったため十分な準備が整わない中での実施となり、対象生徒の技術的要素や問題に対応する場面設定などは行えず、観察や日常の学習の様子でまとめられている。そのため、今後は、生徒が自主的に考え、他の生徒と連携を図りながら作業を進めることができるように支援していきたい。

授業参観者アンケート

「主体的・対話的で深い学び」についての評価
【主体的な学び】 ・前時の国語でポスターの構図を生徒自身で立てていたため、活動に見通しをもって主体的に取り組めていた。 ・本来であればP C作業なので、主体的であっても対話的とは正反対だと思っていたが、他の生徒が作成した作品にアドバイスや自分の考え、作者者に対する配慮もうかがえ、良かったと思う。また、自分がベストだと思った作品に他者のアドバイスを受け、取り入れる姿も良いと思った。 【対話的な学び】 ・完成したポスターについて仲間の意見をきく場面では、はじめ遠慮をして良い所の意見に偏っていたが、MTの言葉掛けによって改善点も含めながらしっかりとアドバイスすることができていた。 【深い学び】 ・仲間の意見を参考にして、お客様により分かりやすいポスターを作り直すことができていた。 ・国語で作製したポスターイメージを参考に、作業学習でパソコンを使用してポスターを作成するという教科等横断的な学習が行われていた。 ・「作成する」「助言をもらう」「改善する」を1つの作品を作るために、主体的・対話的で深い学びが組み込まれていて、学びの多い学習をしている。
授業を通しての感想（良かったところ・改善点、MT・STの動きについてなど）
・単元目標、本時目標ともに達成された、素晴らしい授業だと思いました。 ・生徒が相談しやすいように言葉掛けを適宜行っていた。 ・MT、STともに説明過多ではなく、必要な場面で適切な言葉掛けをしていて良かったと思います。 ・MTとSTが常に対角線におり、生徒の状況を把握しやすい環境にあった。